

## 31年1月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成31年 1月1日～ 31年1月10日

## 2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
1月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
仕入 動向	国産材製材品	△ 56.3	△ 43.8	△ 12.5
	外材製材品	△ 50.0	△ 56.3	△ 18.8
	構造用集成材	△ 42.9	△ 35.7	△ 7.1
消費 動向	国産材製材品	△ 68.8	△ 50.0	△ 18.8
	外材製材品	△ 56.3	△ 37.5	△ 18.8
	構造用集成材	△ 64.3	△ 28.6	△ 7.1
在庫 動向	国産材製材品	△ 37.5	△ 18.8	△ 12.5
	外材製材品	△ 25.0	△ 12.5	△ 18.8
	構造用集成材	△ 14.3	△ 7.1	△ 7.1

・プレカット加工用部材の仕入、消費、在庫動向は国産材、外材製材品、構造用集成材とも3カ月連続減少。

## (2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	31/1月	2月	3月
受注	△ 62.5	△ 37.5	△ 12.5
加工	△ 62.5	△ 37.5	△ 12.5
受注残	△ 62.5	△ 37.5	△ 12.5

・プレカット工場の受注、加工、受注残の動向は3カ月連続減少。

## モニターからのコメント

## (加工用部材荷動き)

・例年に比べ雪少ないが、それ以上に仕事量少ない。  
・当月の仕入は、コンテナの遅れ等によりやや増加気味。その分翌月からはやや減少。外材製材品以外は、翌月にかけて消費はやや減少。在庫は、現在多めなので、今後減らしていく。  
・季節的要因により県産材補助金が新年度にならないとは入ってこないため仕入、消費とも低調。在庫は基本的に持たない。

## (受注動向)

・季節要因を除いても受注、加工、受注残とも低迷。  
・当月から受注が落ちていく見込み。  
・3月になると4月以降に建てる住宅の注文が増加する。